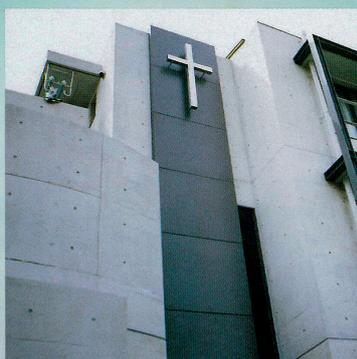
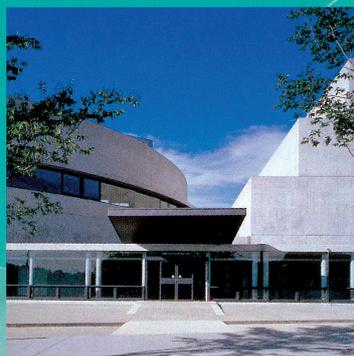


一液常乾型フッ素樹脂塗料 アクアトップ®F 工法

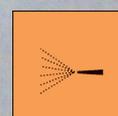
未来をか・た・ちにする



(一社)日本塗料工業会登録	
登録番号	D01258
ホルムアルデヒド 放散等級	F☆☆☆☆



外部用



スプレー



火気厳禁



保護具着用

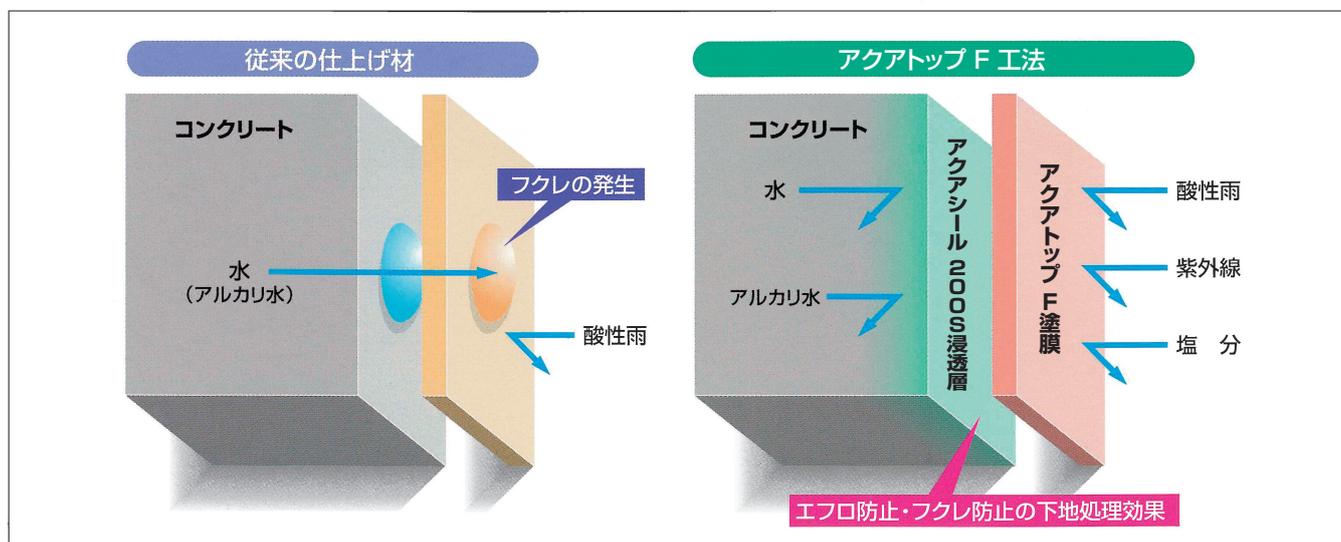
打ち放しコンクリート保護工法

アクアトップ[®]F 工法

自然で美しい意匠性を保つ/打ち放しコンクリートの最適システム

アクアトップ F 工法は、一液フッ素樹脂塗料「アクアトップ F」と浸透性吸水防止材「アクアシール 200S」を組み合わせ、コンクリートを長期に保護する耐久性塗装工法です。アクアトップ F カラークリヤー艶消白を用いた打ち放しコンクリートの濡れ肌防止工法です。

アクアトップ F 打ち放しコンクリート濡れ肌防止工法イメージ図



上図のようにコンクリートの躯体にアクアシールが浸透し、裏面からの水分をこの浸透層で止める。躯体表面は、アクアトップ F 塗膜の超耐久仕上げとなります。

特長

高フッ素含有

フッ素含有率が高く、過酷な条件下でコンクリートを長期にわたり保護します。

高耐久性

紫外線による劣化が少なく、酸性雨や塩分の浸入を抑制します。

仕上がり感

コンクリートの質感を活かせる工法です。

弱溶剤

臭気がマイルドなので、人と環境に優しい塗料です。1液性のため混合の手間が無く、作業性に優れます。他の塗膜を溶解しないため、リフティング現象を引き起こしません。

用途

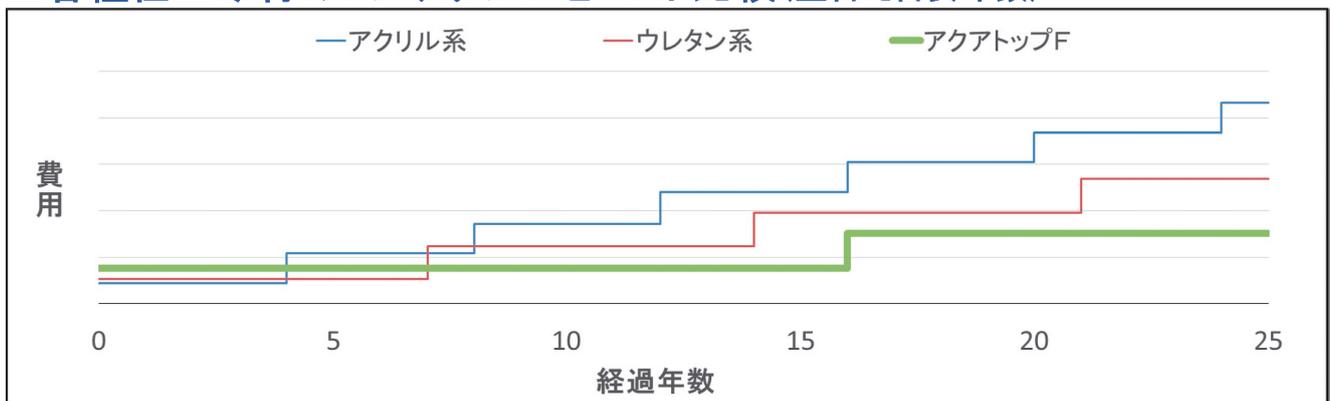
打ち放しコンクリート、モルタル面

■ 耐候性塗膜の比較表

	アクアトップ F 濡れ肌防止工法	一般フッ素樹脂塗料	アクリルシリコン樹脂塗料
内容	一液常温硬化型フッ素	二液常温硬化型フッ素	二液常温硬化型シリコン
60° 鏡面光沢度 クリアー	75~80	75~80	75~80
耐久性 S-UV1000 時間 (光沢保持率)	96% (◎)	90% (○)	75% (△)
工程・材料種類	4工程・2種類	5工程・3種類	4工程・2種類
施工所要日数 (内容)	2日	4日	3日
	下塗り1日 上塗り1日	下塗り1日 中塗り1日 上塗り2日	下塗り1日 上塗り2日
仕上がり感	○	○	○

※測定データは当社試験値 ◎優 ○良 △可 ×不可
 ※S-UVは1,000時間で実暴の20年相当と言われています。

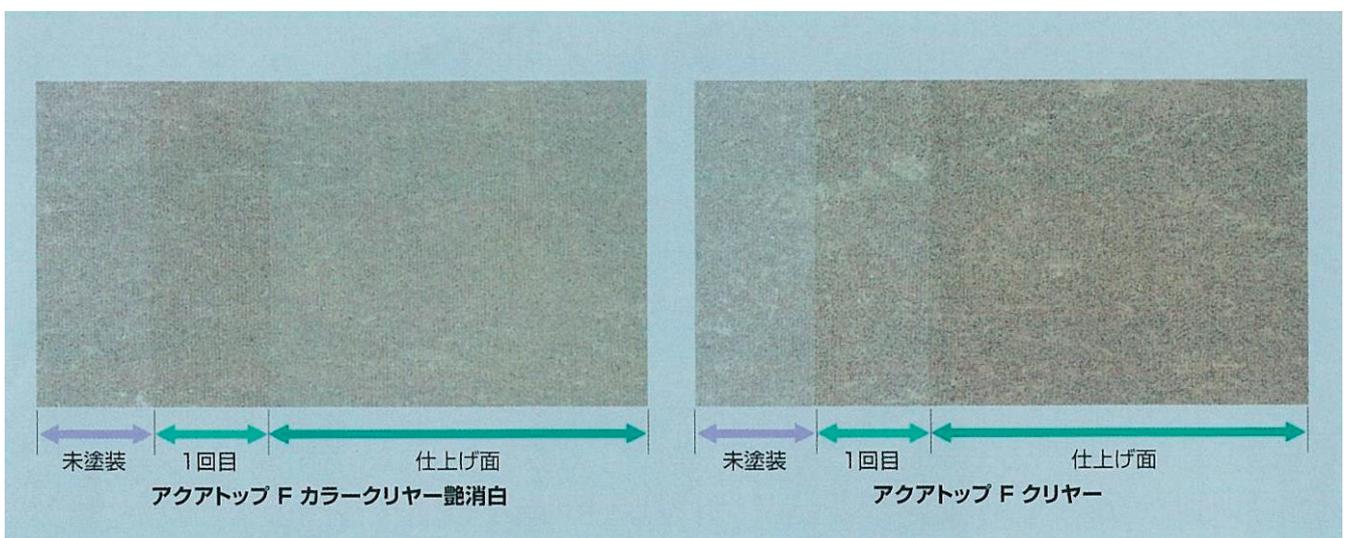
■ 各種仕上げ材のメンテナンスとコスト比較(塗替え目安年数)



※ランニングコストの比較をし、さらに塗替え費用(足場・養生等)も考えるとフッ素塗料は有利です。

■ 仕上がり感 打ち放しコンクリート濡れ肌防止工法

標準色は、カラークリアー艶消白及びクリアーとなります。



基材はスレート板。塗布部分の下塗にはアクアシール200Sを塗布しています。

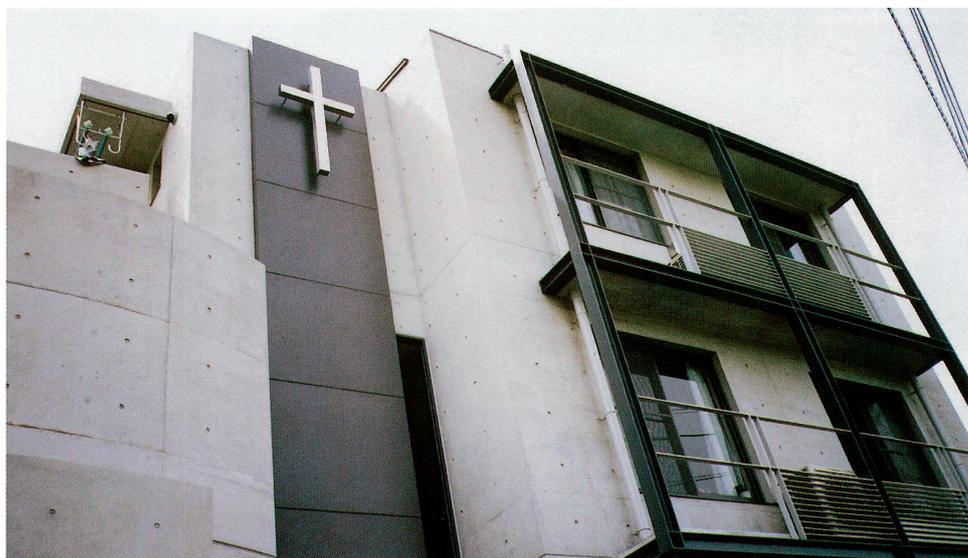
未来をか・た・ちにする……



都幾川村文化体育センター



JR朝霧駅



西宮マリヤ教会

…アクアトップ®F



東京家政大学教育会館・小講堂



アンリ シャルパンティエ ハーバースタジオ43



種智院大学向島キャンパス

■使用材料

	アクアシール 200S	アクアトップ F カラークリヤー艶消白 [※]	アクアトップ F シンナー
系 統	浸透性吸水防止材	一液型フッ素樹脂系	有機溶剤
危 険 物	第 4 類第 2 石油類	第 4 類第 2 石油類	第 4 類第 2 石油類
有 機 則	第 3 種有機溶剤等	第 3 種有機溶剤等	第 3 種有機溶剤等
荷 姿	16ℓ、4ℓ	16kg、3kg	16ℓ、4ℓ
密 度 (23℃、参考値)	0.80	0.93	0.79

※アクアトップ F カラークリヤー艶消白の他にクリヤーがありますが、濡れ色に仕上がります。

■標準仕様

打ち放しコンクリート濡れ肌防止工法（カラークリヤー艶消白となります。）

工 程	使用材料	塗布量（／m ² ）	施工間隔（23℃）	塗装方法と希釈率
1 下塗り①	アクアシール 200S	0.10～0.12ℓ	追っかけ塗り	ローラーが原則 （無希釈）
2 下塗り②	アクアシール 200S	0.10～0.12ℓ	6 時間以上養生	
3 上塗り①	アクアトップ F カラークリヤー艶消白	0.10～0.12kg	30 分以上 [※]	スプレーが原則 （10～20%）
4 上塗り②	アクアトップ F カラークリヤー艶消白	0.10～0.12kg	3 時間以上乾燥養生	

※指触乾燥後、塗装する。

■性能試験

耐液体性試験

試験項目	アクアトップ F	アクリルシリコン樹脂塗料
耐水性 (水道水:30日浸漬)	○	△
耐酸性 (5% 塩酸:30日浸漬)	○	△
耐アルカリ性 (5%NaOH:30日浸漬)	○	△

<試験条件> 基材：旧 JIS モルタル
塗装：打ち放しコンクリート濡れ肌防止工法

シーリング材との接着性

シーリング材	後打ち		先打ち	
	プライマー有	プライマー無		
1 液	シリコン	○	○	×
	変性シリコン	○	○	×
	変性シリコン ノンブリード	○	○	×
	ウレタン	○	×	×
	ウレタン ノンブリード	×	×	×
	アクリル	×	×	○
	アクリル ノンブリード	×	×	×
2 液	変性シリコン	○	×	×
	変性シリコン ノンブリード	○	○	×
	ウレタン ノンブリード	○	×	×
	ポリサルファイド	○	×	×

<試験条件> 後打ち：アクアトップ F の塗装 7 日後、シーリング材を施工
先打ち：シーリング材の施工 7 日後、アクアトップ F を塗装

※当社試験値であり、各種シーリング材の成分およびメーカーによってバラツキがありますので、試験施工を行いご確認下さい。

■施工方法 打放しコンクリート濡れ肌防止工法

事前確認

1. 処理面の調査
 - ・新築か補修かによって、また素材の種類によって施工の工程、数量、養生などに影響があるので、十分に確認してください。
 - ・必ず施工前に試し塗りをを行い、仕上り感を事前にチェックしてください。

前処理

1. 処理面の汚れ、油分などを除去し、清浄かつ完全に乾燥した状態にしてください。(含水率：ケツ水分計6%以下)
2. 処理面のクラック、ジャンカなどのあるときは前もって補修してください。(クリヤー仕上げの時は色合せ補修をしてください。)但し、壁面で0.3mm幅以下のクラック、ピンホールの場合はそのまま補修なしでアクアシールを塗布しても、吸水防止性能が得られます。
3. 溶剤の影響を受ける可能性がある周辺(ガラス、庭木など)に対しては必ず養生してください。
4. 風向き、気温等の影響および塗装の方法により臭気が強く感じられることがありますので臭気対策のための養生を行ってください。

施工I(アクアシール)

1. アクアシール 200Sは希釈せずそのまま使用してください。
2. 塗布方法は、原則としてローラーで施工してください。(スプレーで塗装される場合は、周辺の養生をより確実に行ってください。)
3. アクアシール 200Sは乾燥すると塗布面と未塗布面との区別がつきにくくなります。塗りもれのないようブロック毎等、中断することなく連続で塗布してください。
4. アクアシール 200Sを塗布面にむらなく十分に浸透させるためには、一度に厚塗りせず2回塗り重ね、規定量0.2~0.24L/m²を確実に塗布してください。(スプレーで塗布される場合は、霧散しますので2~4割程度多めの量を塗布してください。)アクアシール 200Sは浸透型ですので追っかけ塗りが可能です。
5. アクアシール 200Sの塗布面は23℃、6時間以上乾燥養生してください。

施工II(アクアトップF)

1. アクアトップ Fは、専用シンナーで希釈し使用してください。
2. アクアトップ Fの塗布量は2回で0.2~0.24kg/m²としスプレーにて均一に塗布してください。特に、膜厚により大きく色調が変わる場合がありますので、一度に厚塗りせず、色相を見ながら、タレのないよう、塗布量の微調整を行ってください。
3. 1回目の塗膜は23℃、**30分程度**で乾燥します。その後2回目を塗布してください。2回目はタレやすいので注意してください。
4. 仕上げの塗装後23℃で**3時間以上**の養生が必要です。
5. シーリング用の目地は養生し、塗料が付着しないように工夫してください。シーリング材の上にはアクアトップ Fの塗膜が付着しない場合があります。
6. アクアトップ Fが処理面以外に付着した場合、速やかに専用シンナーで拭き取ってください。

検査

1. 塗りムラ、塗り残し、塗布量不足、ピンホール、キズ等を確認してください。

※施工にあたっては、必ず施工手順書をご請求ください。

■施工上の注意事項

1. 引火性液体ですので、火気および高温物のあるところでは使用しないでください。
2. 取り扱い中はできるだけ皮ふに触れないようにし、必要に応じて有機ガス用防毒マスクまたは送気マスク、耐油性保護手袋、保護眼鏡、前掛け等を着用してください。塗装中、乾燥中とも換気をよくし、蒸気を吸い込まないようにしてください。取り扱い作業場所には、局所排気装置を設けてください。
3. 気温5℃以下、風速5m/秒以上、降雨、降雪の場合の施工は避けてください。また、施工中に降雨、降雪等にあった場合は施工を中止し、シート養生をして塗装面を保護してください。
4. 塗布対象面以外の箇所(植物、金属、ガラス、木材、コーキング材等)は、養生等を施し、付着させないようにしてください。
5. ガラス面、金属面、プラスチック面等に付着したときは、速やかに除去してください。(固着すると全く除去できなくなる場合がありますので十分に注意してください。)
6. 塗装機器、塗装器具等は使用後速やかにシンナー等で洗浄してください。
7. 本品は、石油・シンナー臭がします。施工にあたっては作業者に注意を促すとともに周辺環境にも留意してください。特に近隣の居住者には施工の前に事前の説明および了承を得るようにしてください。

■ 取り扱い、保管上の注意事項

アクアトップ F、アクアトップ F シンナーは、吸入したり皮ふに触れたりすると中毒やかぶれを起こす恐れがありますから取り扱いには下記の注意事項を守ってください。

- 引火性液体ですので火気および高温物のあるところでは使用しないでください。
- 取り扱い作業場所には局所排気装置を設けてください。
- 塗装中、乾燥中とも換気をよくし、蒸気を吸い込まないようにしてください。
- 取り扱い中は、できるだけ皮ふに触れないようにし、必要に応じて有機ガス用防毒マスクまたは送気マスクを付け、頭巾、保護メガネ、長袖の作業衣、襟巻きタオル、保護手袋などを着用してください。
- 容器からこぼれた場合には、必ず乾燥砂、土、おがくず、ペーパータオル等に吸収させて、密閉できる空容器に回収してください。
- 塗料の付着したウエスや塗料カス、スプレーダストなどは廃棄するまでは必ず密閉できる空容器に回収してください。
- 容器、塗装機器装置等を洗浄した廃水等は、地面や排水溝へそのまま流さないでください。
- 廃塗料などを焼却処理する場合には「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」など関連する法規に従って処理してください。
- 排水処理、焼却などにより発生した廃棄物についても、「廃棄物の処理および清掃に関する法律」および関係する法律にしたがって処理を行うか、処理を委託してください。
- 取り扱い後は、手洗いおよびうがいを十分に行ってください。
- 皮ふに付着した場合には、多量の石けん水で洗い落とし、痛みまたは外観に変化があるときには、医師の診察を受けてください。
- 目に入った場合には、多量の水で洗い、できるだけはやく医師の診察を受けてください。
- 蒸気、ガスなどを吸い込んで気分が悪くなった場合には、空気の清浄な場所で安静にし、必要に応じて医師の診察を受けてください。
- 誤って飲み込んだ場合には、できるだけはやく医師の診察を受けてください。
- 火災時には炭酸ガス、泡または粉末消火器を用いてください。
- 一定の場所を定めて、子供の手の届かないところへ保管してください。
- 容器は直射日光を避け、火気を厳禁し、密栓して通風の良い冷暗所に保管してください。また強酸化物とも一緒に置かないでください。
- 中身を使いきってから廃棄してください。
- シンナー遊び、汚れ落としなど本来の用途以外に使用しないでください。
- 容器は転倒させたり、落下させたり、衝撃を加えたり、または引きずるなどの乱暴な取扱いはしないでください。
- 静電気対策のため、装置などは接地し、電気機器類は防爆型(安全増型)を使用してください。
- 工具は火花防止型のものを使用してください。
- 作業衣などに付着した場合には、その汚れをよく落としてください。

これら材料の安全な取り扱いにあたっては使用される材料に該当する安全データシート(SDS)を必ずご参照ください。

記載内容は、現時点で入手できた資料や情報に基づいて作成しておりますが、記載データや評価に関しては、いかなる保証をなすものではありません。また注意事項は通常の取り扱いを対象としており、特殊な取り扱いの場合には、新たに用途、方法に適した安全策を実施のうえ、お取り扱い願います。



本社 〒532-0032 大阪市淀川区三津屋北2丁目14番18号 TEL.06(6308)6288 FAX.06(6308)3618
東京支店 〒135-0031 東京都江東区佐賀1丁目18番8号 TEL.03(3642)8431 FAX.03(3643)5560
名古屋支店 〒452-0962 愛知県清須市春日流7番地1 TEL.052(409)8711 FAX.052(409)8716
大阪支店 〒532-0032 大阪市淀川区三津屋北2丁目14番18号 TEL.06(6308)6281 FAX.06(6308)3512
福岡支店 〒812-0051 福岡市東区箱崎ふ頭5丁目8番18号 TEL.092(641)2025 FAX.092(641)4022
札幌営業所 〒061-3244 石狩市新港南3丁目704番地8 TEL.0133(76)6177 FAX.0133(76)6178
千葉営業所 〒270-1403 千葉県白井市河原子木戸場364番地13 TEL.047(492)1901 FAX.047(492)1903
神奈川営業所 〒252-0244 神奈川県相模原市中央区田名2507番地10 TEL.042(764)4835 FAX.042(764)4836
滋賀営業所 〒524-0051 滋賀県守山市三宅町561番地 TEL.077(583)2234 FAX.077(583)3964
姫路営業所 〒670-0073 兵庫県姫路市御立中5丁目12番22号 TEL.079(299)5959 FAX.079(299)5960
広島営業所 〒733-0833 広島市西区商工センター4丁目5番15号 TEL.082(277)6464 FAX.082(277)6461

本社工場 〒532-0032 大阪市淀川区三津屋北2丁目14番18号 TEL.06(6308)6281 FAX.06(6308)3512
滋賀工場 〒524-0051 滋賀県守山市三宅町561番地 TEL.077(583)2234 FAX.077(583)3964

アクアシール会 <https://www.aquaseal.jp>



アクアシール会



製品の規格及び仕様は改良等のため予告なく変更する場合があります。

50-1185

'23.6.10版 3,000S